

平成23年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

要支援・要介護高齢者における一人暮らしの工夫に関する探索的研究

—家事に焦点を当てて—

学位の種類：修士（作業療法学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号：10896601

氏名：猪股 英輔

（指導教員名：小林 法一 准教授）

注：1,000字程度（欧文の場合300ワード程度）で、本様式1枚（A4版）に収めること

【目的】本研究の目的は、要支援・要介護状態における一人暮らし高齢者の家事に焦点を当て、生活上の工夫を明らかにすることである。

【方法】質的研究デザインを採用して、半構成的面接と家事の作業場面の観察により調査し、KJ法を用いて分析した。対象者は70～90歳代の男性4名、女性6名であり、全員が訪問介護を受けていた。

【結果】データを統合した結果、一人暮らしの家事の工夫として、【自己決定権をもつ】【信条・信念を守る】【親しい人と繋がりをもつ】【作業を効率化する】【新しい方略を立てる】【リスクマネジメントを図る】【環境を適合させる】【備蓄で安心感を得る】【回復を期待して再開を希望する】の9つの概念が見出された。この概念を構造化すると、(1)その人らしい家事の意味を実現する工夫、(2)対処行動と環境調整による家事の工夫、(3)一人暮らしの安心を得るための家事の工夫、にまとめられた。また、(4)家事の再開の希望は、工夫の本質ではないが、家事の動因になるものと思われた。

【考察】結果より、自己決定権をもち自律的に生活をコントロールし、信条・信念を守り役割の認識と自尊感情を高め、親しい人との繋がりで生活を豊かにすることは、その人らしい家事の意味を実現させる工夫と考えられた。対処行動と環境調整は、様々な生活場面で用いられる実践的な工夫であり、一人暮らしの安心を得るために備蓄で安全欲求を充足させることは、生活を支える基盤となる工夫であった。

これらの工夫は、いずれも一人暮らし高齢者の生活の中に見出された要素であり、作業療法による支援の対象になりうると思われる。本研究により、「家事の工夫の実現」という高齢者の自立生活支援における新たな観点が見出された。